

## 冷温停止状態は大丈夫か

学習会参加者

茨城県で大きな竜巻が発生しました。家屋を巻き上げ電柱を倒し甚大な被害が出ておりその威力には驚かされます。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

私は、当懇談会が主催した4月17日の「原発事故について考える」学習会に参加しました。そこでのお話の中に「原子炉の冷温停止状態とは正常な冷却機能により100℃以下に安定した状態を言うのであって、仮設の冷却装置で故障や漏洩などでかろうじて冷却している状態ではとても冷温停止状態で収束できたとは言えない」という部分があったことを思い出しました。

今回の竜巻がもう少し北側にずれて発生し、福島第一原子力発電所を通過していたらと思うとぞっとします。原子炉建屋の外側に設置されている仮設の冷却装置は相当の被害を被ったであろうと想像できます。損傷した部位の修理にはどのくらいの時間がかかるのだろうか。果たして冷却機能は確保できて冷温停止状態を維持できるのだろうか。冷温停止状態を維持できなくなっても放射性物質の新たな放出は避けられるのだろうか。

正常な原子炉の冷却装置よりも遥かに脆弱な仮設の冷却装置が損傷する可能性は、自然条件だけでも竜巻の他に台風、新たな地震、落雷等があります。

福島原発の現場では高い放射能の下で懸命な作業が続いている事と思います。詳しい事は分からないが、収束に向けて一步一步進んでいる事でしょう。しかし政府が収束宣言を出したからといって楽観できる状況でないことは確かであろう。